

## 消防団長紹介



### 東大阪市消防団 団長 大濱 進彦

昭和42年2月1日の三市（枚岡市、河内市、布施市）合併により誕生した東大阪市は、大阪平野のほぼ中央に位置し、西は大阪市、東は生駒山地で奈良県と境を接しています。市域の地形は、平野部と山地の二つに大別することができ、中核市として発展しております。

市内には、2019年のラグビーワールドカップで会場になった東大阪市花園ラグビー場があり、また、世界に誇れる技術を持つ中小企業が集まる町として注目され、2023年にはNHK朝の連続テレビ小説「舞い上がれ」の舞台となりました。

「ラグビーのまち」や「モノづくりのまち」として全国的に広く知られています。

当市消防団の歴史は、明治3年に消防組が発足、昭和14年1月24日警防団令の公布により警防団に改組し、昭和22年9月24日消防団令の施行に伴い消防団に改められました。昭和42年2月1日の三市（枚岡市、河内市、布施市）合併により東大阪市東消防団、中消防団、西消防団となり、昭和46年2月1日にこれらの3団が統合し東大阪市消防団となりました。

現在、東大阪市消防団は団本部を中心に3方面隊15分団で構成され、31屯所、救助資機材搭載型ポンプ車1台（令和元年度から）、小型動力ポンプ付積載車31台で各方面の消防業務及び水防業務（水防団兼務）に従事しています。広報啓発隊の女性消防団員による普通救命講習や広報・啓発等の活動につきましても幅広く行っています。更には、消防団の大規模災害対応の役割を果たすために令和元年度発足した団本部支援隊を中心に、救助資機材搭載型ポンプ車や各種救助資機材の習熟訓練をしており、市民の安全・安心を守るため、日々、尽力しています。

私は、昭和49年4月に入団以来、副分団長、分団長を歴任し、昭和58年4月からは副団長、平成7年8月からは消防団長に任命されました。また、平成10年11月から（財）大阪府消防協会中河内地区支部長と併せて常任理事に就任、平成15年4月から平成25年6月は同協会 副会長を務め、平成25年6月から（公財）大阪府消防協会 理事、平成28年6月から同協会 副会長、令和元年6月から令和5年6月までは同協会 会長を務めました。

また、平成28年7月からは（公財）日本消防協会 評議員に就任、令和4年6月から令和5年6月まで同協会副会長を務めました。

今までの消防団活動において、山林火災やトンネル火災、工場火災、その他自然災害と様々な災害対応を経験いたしました。中でも、消防団長に拝命されて間もないころに発生した、大きな倉庫火災が特に記憶として残っています。

夜中に発生したこの倉庫火災は、消防団長拝命後初めての大きな災害で、消火活動は17時間にもおよびました。私は、火災の状況を見た瞬間に長時間の消火活動になると判断し、消防団員の安全や体力、消防ポンプの性能や燃料等を総合的に考慮した結果、出動消防団員を3班に分け、30分交代での消火活動を指示いたしました。併せて、自らも常備消防と連携しつつ、火災現場の先頭に立って指揮を執り、消防団員が遺憾なく消火活動できるように努めた結果、1人の負傷者も出さず、周辺建物への延焼についても防いで消火することができました。

消防団に入団してからは常に責任感を持ち、消防団業務全般については積極的に自己研鑽してまいりました。また、変革する消防業務に対しても種々の考えを持ち、常に問題意識をもって消防団活動に取り組んでいました。これら地道な積み重ねと、他の団員からの信頼により、47歳の時に消防団長に任命いただきました。消防団長の拝命後も、消防・防災関係機関との連携や地域の消防防災体制の充実強化を積極的に努めてまいりました。

また、大阪府消防協会の会長や大阪府消防協会中河内地区の支部長を務めさせていただき、東大阪市のみならず大阪府の消防行政の発展に貢献してまいりました。